

## (仮称) エキスポランド跡地複合施設開発事業に係る環境影響評価提案書 に対する吹田市環境影響評価審査会意見【交通部会見解を除く】(案)

本審査会は、(仮称) エキスポランド跡地複合施設開発事業に係る環境影響評価提案書について、住民の意見を考慮して、環境の保全及び良好な環境の創造の見地から専門的・科学的に慎重に審査を行った。

事業者は、「豊かで潤いのある都市環境の創造と地球環境への貢献をめざします」、とする環境理念のもとで、「環境との共生に積極的に取り組み、持続的発展が可能なまちづくりと、実効性の高い環境施策を展開する」、「スマートシティなど環境配慮型まちづくりを国内外で展開し、未来のまちづくりをリードする環境先進企業をめざします」との環境方針を示している。

また、取組方針においても、「より環境にプラスになる施策を実施していく」と示している点は、吹田市環境まちづくり影響評価条例の趣旨と一致するところであり、高く評価することができる。この「商業施設としては全国トップクラスの環境配慮型の施設を目指す」とする取組内容は、東日本大震災を経験し、改めて持続可能なエリアエネルギー需給のあり方やまちづくりの方向性を正しく示している。

本審査会意見は、開発にあたって事業者が示した様々な内容を受けて形成したものである。

環境影響評価書案の作成に向けた環境影響評価については、最新の科学的技術・知見に基づき実施するとともに、環境配慮事項の検討を深め、より具体的に取組を示されたい。

### 記

#### 【全体事項】

当該事業は計画地近傍で、ほぼ同時期に大規模なスタジアム建設事業が予定されており、その双方が条例の対象事業となっているという特殊性を有している。そのため、可能な限り先行する近接事業との複合的な環境影響を考慮し、慎重に環境影響評価を行うことが必要である。

また、深夜営業が予定されていることから騒音、振動、低周波音、動植物、生態系、景観等、各環境要素について、夜間及び深夜の時間帯についても予測を行うこと。

#### 【個別事項】

##### 1 温室効果ガス・エネルギー

###### (1) 環境取組内容

ア 積極的な未利用エネルギー及び自然エネルギーの活用、高効率及び省エネルギー機器の採用等により、大阪府建築物の環境配慮制度において高い評価結果が得

られるような施設計画を示すこと。

イ 近接事業との連携により実施した、スマートコミュニティの取組に関する実現可能性調査（「平成 24 年度スマートコミュニティ構想普及支援事業」）の結果も参考にして、温室効果ガス排出量、エネルギー使用量を削減させる先進的な取組を具体的に示すこと。

ウ 持続可能な低炭素エネルギーの活用による全国トップクラスの環境配慮型商業施設を実現する観点から、近傍にある吹田市資源循環エネルギーセンターのごみ焼却熱を活用するエネルギーのベストミックスモデルの実現可能性を検討すること。

## (2) 現況調査

類似の施設における未利用エネルギー及び自然エネルギーの活用等の先進的な地球環境対策の実施状況等の事例を調査すること。

## (3) 評価の方法

計画で予定している環境取組内容を実施しなかった場合及び先進的な環境取組内容を実施した場合と予測の結果を比較することで、それぞれを可能な限り定量的に評価すること。

## 2 廃棄物等

### (1) 環境取組内容

廃棄物の発生抑制や再資源化を円滑に進めることができるようなシステムを検討し、事業の運営計画に織り込むこと。

### (2) 現況調査

類似施設における先進的な廃棄物削減事例を調査すること。

### (3) 評価の方法

計画で予定している環境取組内容を実施しなかった場合及び先進的な環境取組内容を実施した場合と予測の結果を比較することで、それぞれを可能な限り定量的に評価すること。

## 3 ヒートアイランド現象

### (1) 現況調査

ア 市域全体の地表面温度の状況について、既存資料を用いて調査すること。

イ 類似の施設における先進的なヒートアイランド対策の実施状況の事例等を調査すること。

### (2) 予測及び評価の方法

計画で予定している環境取組内容を実施しなかった場合及び先進的な環境取組内容を実施した場合と予測の結果を比較することで、それぞれを可能な限り定量的に評価するとともに、市域の平均的な地表面温度と比較して評価すること。

#### 4 地盤沈下

##### (1) 現況調査

事業計画地周辺における地下水の利用状況を調査すること。

##### (2) 予測の方法

事業計画地周辺における地下水の利用状況も考慮して地盤沈下を予測すること。

#### 5 騒音

##### (1) 環境取組内容

事業計画地周辺における教育及び医療施設への影響の把握に努めること。

##### (2) 現況調査

休日の調査時期は、万博公園の来場者が多数となる時期とすること。

##### (3) 予測の手法

イベント開催時期や特異日においても供用後の騒音予測を行うこと。

##### (4) 調査地点

ア 一般環境騒音に係る調査地点として、清水を追加すること。なお、高層住宅に配慮して、現況調査、予測及び評価を実施すること。

イ 道路交通騒音に係る調査地点として、府道1号線茨木摂津線（万博外周道路）北山田小学校付近を追加すること。

#### 6 低周波音

##### (1) 予測の手法

ア イベント開催時期や特異日においても供用後の低周波音を予測すること。

#### 7 緑化、景観

事業計画地は豊かなみどり環境を備えた万博公園内に位置することから、計画するみどりの量、質、配置については景観面にも強く配慮する必要がある。特に、万博外周道路側については現況景観を尊重した重点的な緑化を図るよう検討すること。

##### (1) 予測及び評価の方法

ア 観覧車等の照明に動的なものを予定している場合はVRの作成によりその影響を予測すること。

イ 本市開発事業の手續等に関する条例の目標緑化率(30.0%)の達成割合について評価すること。

#### 8 評価の手法(全般)

効果的な環境取組を講じた上で、当該事業の実施による環境影響が可能な限り削減されるかどうかを評価すること。